

2021年度 事業計画書

I. 事業方針

昨年度世界中に蔓延したコロナウィルス感染拡大の影響は今年度にも及び、ワクチンの普及に伴い終息に向かうことを期待するが、平常な生活に戻るにはまだ時間を要する。人の移動が制限され、あらゆる分野において経済活動が停滞していたが、ものづくりの分野においては年初よりわずかながら上昇基調に転じる兆しが見られている。これは通常の景気循環に加え、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロを目指す政府の方針によるところが大きい。エネルギーの安全保障と脱炭素への対応は、気候変動と自然災害の激甚化からも急がなければならない。また、新政権でデジタル庁が創設されことから、IT技術の発展によってビジネスが多様化した今、あらゆる業種でデジタル化の推進が必要不可欠になっている。

こうした多様性が求められる現下においては、「歯車」に関連するすべての業種、すなわち歯車を含む機械加工全般、歯車装置、工作機械、測定機、工具、材料、熱処理等の重要性がますます高まることが想定される。そして、多年に渡って蓄積されてきた技術、技能に加え、目まぐるしく変化する社会のニーズを早く察知し、新たな感覚でチャレンジする姿勢が強く求められる。

大きなターニングポイントを迎えている今、日本の機械産業全体の発展を下支えする日本歯車工業会の役割は重要で、今年度も引き続き、強い使命感を持って以下の事業を実行する。

昨年コロナ感染の影響で余儀なく中止したギャカレッジを、今年度は実習を省き講義をすべてオンラインとして再開する。若い次世代エンジニアの育成に欠かせない基礎教育を新たな形で取り組む。いろいろな課題が起ころうだろうが、真摯に向き合いながらよりよい教育システムを構築していく。さらに、ギャカレッジ修了生を対象に情報交換、技術交流の場としているギャカレッジ・フォローアップ研修会の活動充実にも取り組む。若手経営者研究会についても、これからの歯車業界を担う経営者にとって魅力的な内容を検討し展開する。

ISO国際規格の対応も引き続き大きな柱となる。今やグローバル化は避けられず、改正に深く関わりながらJIS規格への整合も進める。優良会社を工場見学して経営に関する学習を行う場として経営研修会を設けており、訪問先のガイドラインに沿った感染対策を徹底した上で実施する。昨年制定した鋼材品質評価法のフォローも引き続き実施する。

技術革新のスピードが目まぐるしく早まり、時代のニーズを速やかに捉え、素早く適応していく体制が今後ますます求められる。会員各位にとって有益な工業会を目指し、今年度も事業に邁進していく所存である。

Ⅱ. 実施事業

1. 経営力強化事業

1.1 経営研修会

優良企業の見学会、並びに人材開発、教育、経営管理等の実例に基づいた改善活動事例の研修会を年2回開催する。経営力・技術力の強化を目的とし、研修会を通して、経営・技術上の有益な情報・知識を習得し、事業発展に生かす。また、会員同士の交流を深め、新たなビジネスチャンスを創出できるように事業を推進する。

1.2 人材育成・教育

企業の長期安定的な発展の基礎となる中核人材育成事業を実施する。産業技術の競争力向上、そのための技術力強化は、歯車工業会の基本的なミッションの1つであり、次世代を担う技術者養成のための人材育成事業はその根幹にある。

1.2.1 JGMA ギヤカレッジ

今年度はコロナ感染防止を配慮し、座学のためのWebによるライブ講義として開催する。

- (1) JGMA ギヤカレッジ マスターコース（基礎講座） 定員30名

歯車の基礎・設計・製造に関する講義から構成される。

- (2) JGMA ギヤカレッジ プロフェッショナルコース（応用講座） 定員20名

応用に重点をおいた歯車の設計・製造・性能評価に関する講義から構成される。

1.2.2 ギヤカレッジ・フォローアップ研修会

JGMAギヤカレッジ修了生の更なるステップアップの場として、2016年度に新規事業として立ち上げたギヤカレッジ・フォローアップ研修会を引き続き実施する。定員20名

修了生自身による自主運営を原則として、次世代歯車技術者のネットワークづくりと技術力向上、現場の困りごと解決について考えることに重点を置き、ディスカッションを中心とした研修とする。

2. 規格・標準化事業

グローバル化が進む歯車業界における競争力強化に向けて、ISO規格の制定、改訂への積極的な関与がますます重要になる。日本歯車工業会は、永年に渡りISO/TC60(歯車専門委員会)において全ての事案への投票義務を負い、業務に積極的に参加してきたが、関係全WGへの出席は難しい面もあり、取捨選択を行い、必須WG(精度・用語、ベベル・ウォームギア、強度等)に出席する。

また、将来のISO国際会議出席者の若返り及び投票の容易化／厳格化を計るため、各WG小委員会組織を立ち上げる方向で検討を進める。まずは、日本における歯車業界代表として意見集約できる組織作りのための候補者選びを行う。

3. 技術及び研究開発事業

歯車製造分野における高齢化とそれに伴う後継者への伝承のため、次世代を対象として歯車の基礎的技術教育を重点に支援を行う。

3.1 技術・企画委員会

若手経営者研究会と称して、相互研鑽とネットワーク構築を含めた次世代経営者による歯車業界の技術者、経営者育成事業として推進する。年4回開催予定。

3.2 中堅技術者向け基礎技術教育

大学教授、業界の第一線技術者より講師を選定し、目的に沿った演題を設定した歯車技術研究会（日本機械学会：歯車基礎技術講座）を日本機械学会と連携で年2回協賛開催する。

3.3 JGMA TE 運営委員会

2020年度制定された「JGMA9901-01：歯車用鋼材のマイクロビッカース硬さ分布の多点測定法とその評価」に基づき、歯車用鉄鋼材料の適正且つ効率的な評価を目的として、引き続き鋼材硬度測定サービスを実施し、各種鋼材データを積み上げる。

4. その他

4.1 生産性向上設備投資促進

産業競争力強化法（平成25年法律第98号）の規定に基づく先端設備に該当する旨の証明書を発行する団体として、引き続き、証明書発行サービス等の事業を行う。

4.2 広報委員会

4.2.1 歯車関連製品に関する生産、流通等の調査

会員企業並びに歯車産業界における、歯車関連製品の生産動向並びに需要先別調査を継続して行い、業界動向を把握し、データ解析のうえ企業経営の一助として情報を提供する。

4.2.2 広報・PR事業

工業会の活動状況等の情報を会員企業や学術教育研究機関、マスコミ、シンクタンク等にホームページや機関誌等で提供することにより、関連企業及び分野に広く情報を発信していく。

4.2.3 機関誌の発行並びにホームページの充実

機関誌「JGMA News」（年2回）を継続発行し、歯車産業に関する各種最新情報及び話題、関連業界の動向、経済産業省の各種施策、工業会活動報告等を広く情報を提供していく。

また、会員情報や書籍販売、各種統計等の最新情報をホームページに随時更新する。

4.3 総務委員会

4.3.1 各種団体保険の加入促進

当会にて従来から制度化している「団体PL保険」並びに「団体生命保険」について、さらに多くの会員企業に有効的に活用していただくため、加入促進活動を行う。

両制度の継続と規模メリットを享受していただくため、今後も活動を強化していく。

以上